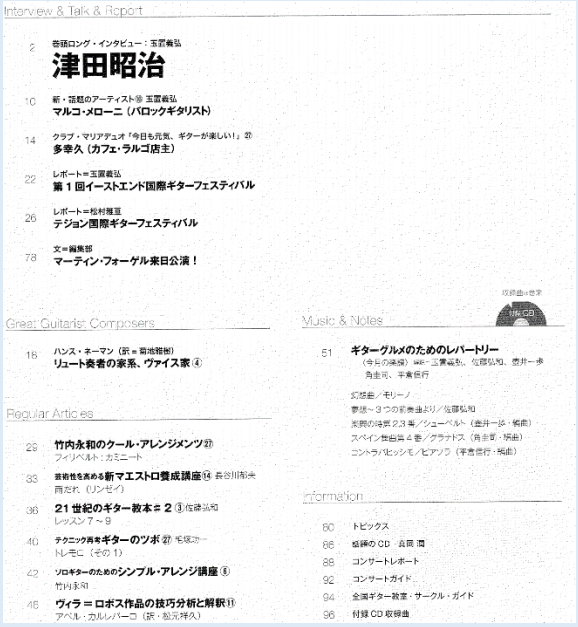
Guitar dream　NO.27(2011. 3)の紹介　by yakateru

表紙



メイン目次

【巻頭ロング・インタヴュー　抜粋・概要】　津田昭治

教則本、バッハ作品の編曲、「学生ギターコンクール」の立ち上げ等に尽力しているギタリストだそうです。最初は、ヤマハのギター講師からスタートした方だそうでちょっと親近感がでました。話は、学生の頃の話、ヤマハ時代の話、ウクレレを弾いていることろ話等です。

ちょっといただく話として、「オパール」の話があります。レーガン大統領がゴルフの際にいいスコアが出たら「OPAL!」というそうですが、「Old person's Active Life」の略だそうで。この言葉、どこかで使わせてもらいます！　「yakateru オパール・ギター・コンサート」！！

【（新）話題のアーティスト紹介　マルコ・メロニー】

バロックギターの魔術師といわれるイタリアのギタリストです。。

- バロックギターというとバロック時代のギターというが、バロック時代にはごく普通のギターだった。私は、バロックギターがただの古楽のための楽器とは考えていない。バロックギターは音楽のための楽器だから古い曲だけを弾くわけでない。
- 昔の音楽家が書いた曲には、五線譜に書かれずに捨てられてしまった音、足さねばならない音が沢山ある。その作業をやれば当時の音楽がまだまだ生きてくると思う。
- 日本の読者へのメッセージ：日本人のギタリストはテクニックはあっても音楽性がないといわれるが、私の考えはそれとは正反対だ。日本人は生活の中にポエジーを持っている。音楽性ももちろん持っている。足りないとしたら、基本的なこと、音楽の歴史かな。私は日本人が音楽性に乏しいとは少しも思わない。

【クラブ・マリアデュオのインタビュー：多　幸久】

スペインギターコンクールで２位の成績を持つも、現在は、ギタースタジオを持つ喫茶店のマスター。

もともと、多家は、雅楽の家柄だそうで、平安の時代から続く高貴なお家柄だそうです。

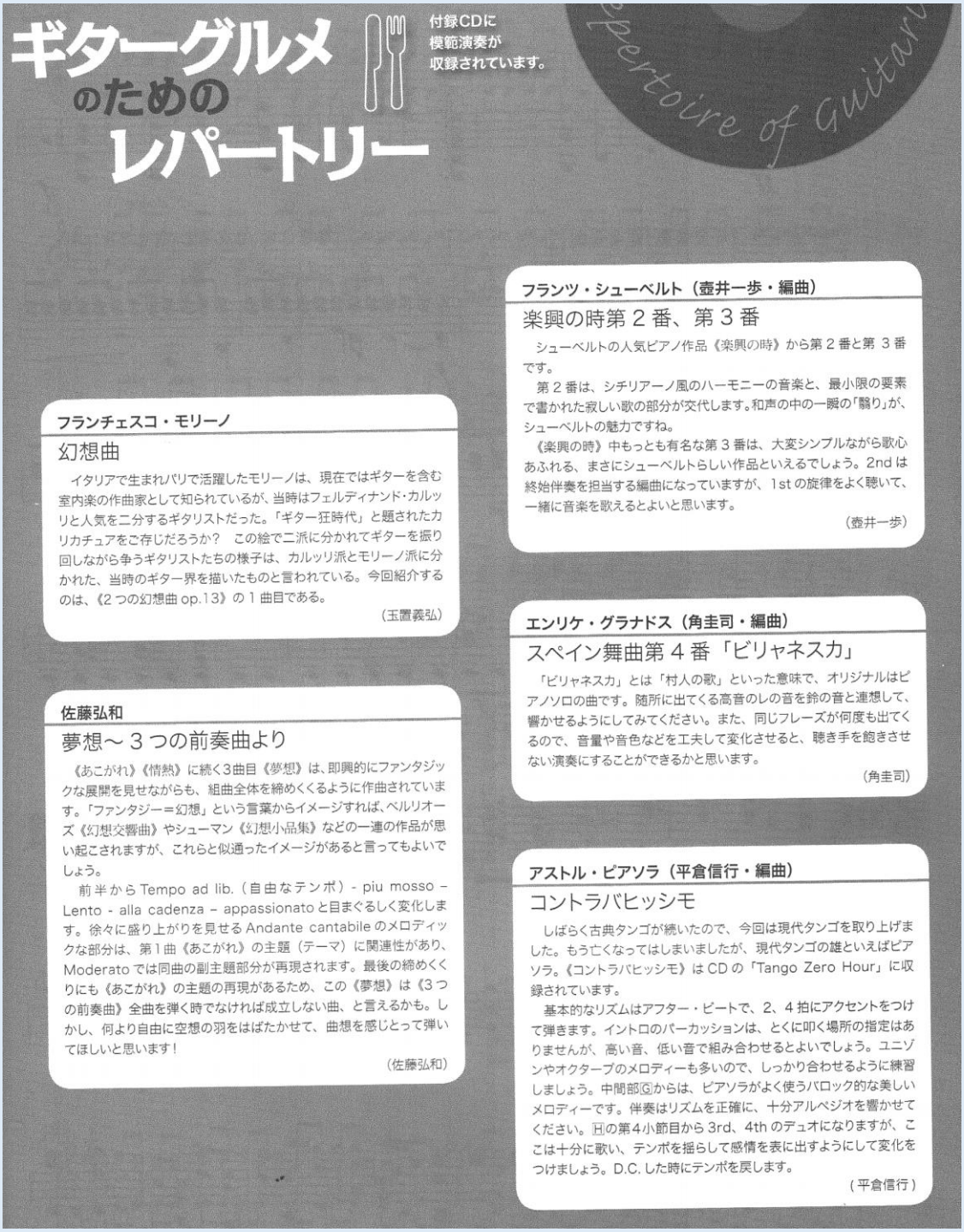
【新　マエストロ養成講座　第14回】

今回は、リンゼイの「雨だれ」。習い始めのころ多くの人が発表会で弾く曲ですが、私はどうもあまり好きになれない曲ですが、少しは曲の魅力が伝わってくるか・・・・・・・

【その他の注目すべき記事】

- 「21 世紀のギター教本：佐藤弘和」： ♯２のシリーズになり、今回は、音価の話。音価の重要性は、その曲に本当に乗っているのかのバロメーターになるような気がします。特に、休符の音価。
- 「クール・アレンジメント：竹内永和」：今回はアルゼンチンタンゴの名作「カミニート」です。
- 「ギターのツボ：毛塚功一」：第 27 回はトレモロ編です。特に、音の粒がそろわない等の克服法が紹介されています。基本は、ゆっくり練習していくことのようです。
- 「ソロギターのためのシンプル・アレンジ講座：竹内永和」：第 6 回は、マイナースケールの解説です。サンプル曲としてシューベルトの「セレナーデ」が掲載されています。

「カルレバーロによるヴィラ・ロボス解説」「リュート奏者、ヴァイス家」のシリーズ等もありますが、この辺りはまた別のところでしょうかしたいと思います。第 27 号のメインは、そんなところでしょうか。
また、Guitar dream には、楽譜と模範演奏 CD がついている。今回は、下の楽曲が掲載されている。



ギターグルメのためのレパートリー

付録CDに模範演奏が収録されています。

フランチェスコ・モリーノ

幻想曲

イタリアで生まれパリで活躍したモリーノは、現在ではギターを含む室内楽の作曲家として知られているが、当時はフェルディナンド・カルッリと人気を二分するギタリストだった。「ギター狂時代」と題されたカリカチュアをご存じだろうか？　この絵で二派に分かれてギターを振り回しながら争うギタリストたちの様子は、カルッリ派とモリーノ派に分かれた、当時のギター界を描いたものと言われている。今回紹介するのは、《2 つの幻想曲 op.13》の 1 曲目である。

（玉置義弘）

佐藤弘和

夢想～３つの前奏曲より

《あこがれ》《情熱》に続く3曲目《夢想》は、即興的にファンタジックな展開を見せながらも、組曲全体を締めくくるように作曲されています。「ファンタジー＝幻想」という言葉からイメージすれば、ベルリオーズ《幻想交響曲》やシューマン《幻想小品集》などの一連の作品が思い起こされますが、これらと似通ったイメージがあると言ってもよいでしょう。

前半から Tempo ad lib.（自由なテンポ）- piu mosso – Lento - alla cadenza – appassionato と目まぐるしく変化します。徐々に盛り上がりを見せる Andante cantabile のメロディックな部分は、第1曲《あこがれ》の主題（テーマ）に関連性があり、Moderato では同曲の副主題部分が再現されます。最後の締めくくりにも《あこがれ》の主題の再現があるため、この《夢想》は《3つの前奏曲》全曲を弾く時でなければ成立しない曲、と言えるかも。しかし、何より自由に空想の羽をはばたかせて、曲想を感じとって弾いてほしいと思います！

（佐藤弘和）

フランツ・シューベルト（壺井一歩・編曲）

楽興の時第２番、第３番

シューベルトの人気ピアノ作品《楽興の時》から第２番と第３番です。

第２番は、シチリアーノ風のハーモニーの音楽と、最小限の要素で書かれた寂しい歌の部分が交代します。和声の中の一瞬の「翳り」が、シューベルトの魅力ですね。

《楽興の時》中もっとも有名な第３番は、大変シンプルながら歌心あふれる、まさにシューベルトらしい作品といえるでしょう。2nd は終始伴奏を担当する編曲になっていますが、1st の旋律をよく聴いて、一緒に音楽を歌えるとよいと思います。

（壺井一歩）

エンリケ・グラナドス（角圭司・編曲）

スペイン舞曲第４番「ビリャネスカ」

「ビリャネスカ」とは「村人の歌」といった意味で、オリジナルはピアノソロの曲です。随所に出てくる高音のレの音を鈴の音と連想して、響かせるようにしてみてください。また、同じフレーズが何度も出てくるので、音量や音色などを工夫して変化させると、聴き手を飽きさせない演奏にすることができるかと思います。

（角圭司）

アストル・ピアソラ（平倉信行・編曲）

コントラバヒッシモ

しばらく古典タンゴが続いたので、今回は現代タンゴを取り上げました。もう亡くなってはしまいましたが、現代タンゴの雄といえばピアソラ。《コントラバヒッシモ》は CD の「Tango Zero Hour」に収録されています。

基本的なリズムはアフター・ビートで、2、4 拍にアクセントをつけて弾きます。イントロのパーカッションは、とくに叩く場所の指定はありませんが、高い音、低い音で組み合わせるとよいでしょう。ユニゾンやオクターブのメロディーも多いので、しっかり合わせるように練習しましょう。中間部Ⓖからは、ピアソラがよく使うバロック的な美しいメロディーです。伴奏はリズムを正確に、十分アルペジオを響かせてください。Ⓗの第4小節目から 3rd、4th のデュオになりますが、ここは十分に歌い、テンポを揺らして感情を表に出すようにして変化をつけましょう。D.C. した時にテンポを戻します。

（平倉信行）